

2017（平成 29）年度  
学修行動と学生生活に関する実態調査（報告書）



2018 年(平成 30)年 3 月

東北学院大学  
学長室 インスティテューショナル・リサーチ（IR）課

## 目次

1	調査の目的 .....	1
2	調査概要と回答者数 .....	1
2.1	前期における調査 .....	1
2.2	後期における調査 .....	3
3	調査結果からの考察 .....	5
3.1	学修行動について .....	5
3.2	学生生活について .....	7
3.3	自由記述について .....	8
3.3.1	Q.20 前期・後期を振り返って良かった点 .....	8
3.3.2	Q.21 前期・後期を振り返って、後期（次学年）に向けて学習時間や学習意欲に関して、自分自身で改善したい点（4年生は、学習時間や学習意欲をどのように改善したか） .....	10
4	まとめ .....	12
	【参考】設問 .....	13

## 1 調査の目的

本調査は、前期及び後期を終え成績発表時に調査を行うことで、学生が学修行動と学生生活を振り返り自らの学修意欲を高める契機とすることを目的としている。同時に大学にとっては既存の調査や成績等と関連づけ、学修行動の変遷を探るための継続的なモニタリングを行うことで、学修成果の向上に向けた取り組みを可能とするものである。

この調査により得られた回答は、統計的に処理され、学内の継続的な改善活動のための基礎データ及び調査・研究に利用される。

## 2 調査概要と回答者数

### 2.1 前期における調査

調査日時：2017(平成 29)年 9 月 6 日から 9 月 29 日

調査方法：学生番号を記載した Web 回答形式

周知方法：TOHOKU GAKUIN Portal My TG(以下「My TG」という)にて配信及び教室でのチラシ配布

有効回答：My TG 学籍情報と学生番号・性別・学部学科が合致する回答  
(実在しない学生番号、学生番号の重複は有効回答から除外する)

回答数：

配信学生数	11,121 名
回答者数	4,546 名
有効回答者数	4,275 名
有効回答率	38.4%

無効回答：

重複回答	238 名
学生番号不一致	22 名
学年・学科不一致	3 名
性別不一致	8 名
無効回答合計	271 名

回答者数は学年別に見ると4年生の回答状況が22.6%と著しく低い(図1)。性別毎では女子の回答率が高い(図2)。学部別の回答は、高い順に教養学部59.7%、法学部48.1%、文学部38.6%の回答率となった(図3)。

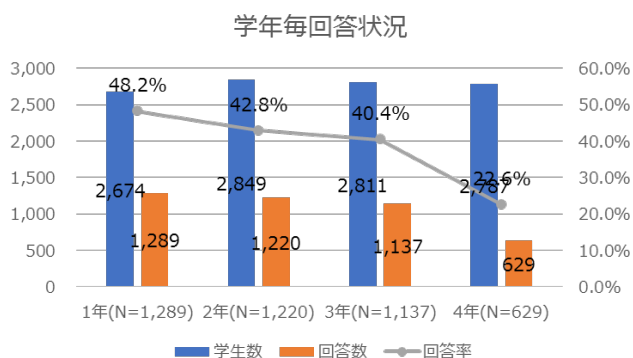


図1 学年毎回答状況

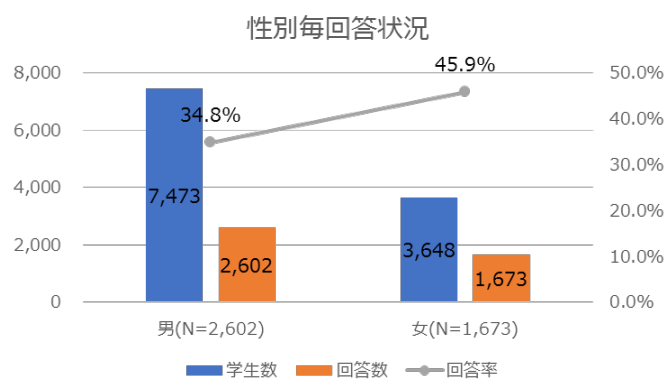


図2 性別毎回答状況

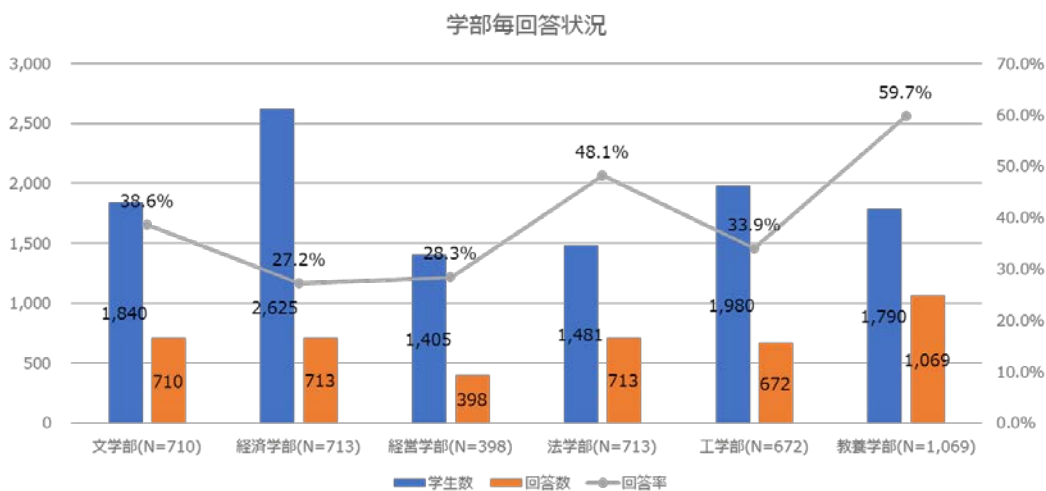


図3 学部毎回答状況

## 2.2 後期における調査

調査日時：2018(平成30)年2月1日から2月26日

調査方法：学生番号に記載した Web 回答形式

周知方法：My TG にて配信（未回答者に対し3度配信）

有効回答：My TG 学籍情報と学生番号・性別・学部学科が合致する回答  
（実在しない学生番号、学生番号の重複は有効回答から除外する）

回答数：

配信学生数	11,066 名
回答者数	3,823 名
有効回答者数	3,688 名
有効回答率	33.4%

無効回答：

重複回答	98 名
学生番号不一致	15 名
学年・学科不一致	22 名
性別不一致	1 名
無効回答合計	136 名

回答者数は上位学年ほど回答率が漸減していく傾向にある（図 4）。性別毎では女子の回答率が高い傾向にあるが、前期よりも 8.1 ポイント回答率が低下した（図 5）。学部別の回答は、高い順に教養学部 38.3%、文学部 38.1%、法学部 33.5%の回答率となった（図 6）。

後期での調査は、授業やゼミ等でのチラシの配布はせずに My TG で配信した Web 回答のみとした。未回答学生を抽出し、3 度回答を促すメール配信をしたが、前期より全体で 5% 下がる結果となった。教員によるチラシ配布と回答を促すメール配信は効果が期待できる。

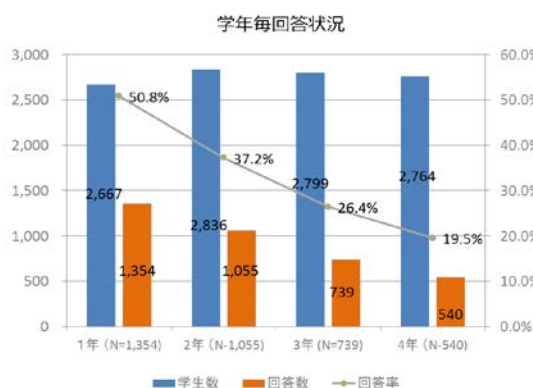


図 4 後期 学年毎回答状況

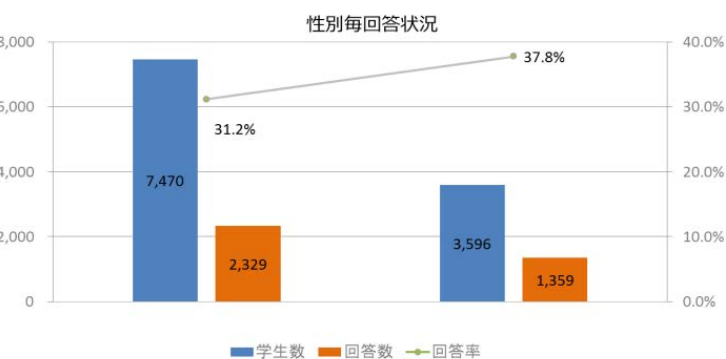


図 5 後期 性別毎回答状況

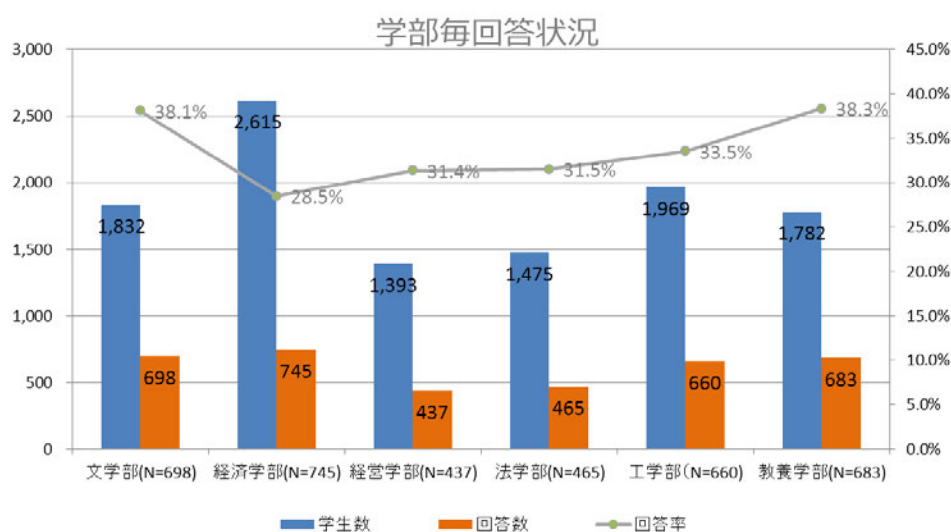


図 6 学部毎回答状況

### 3 調査結果からの考察

#### 3.1 学修行動について

前期・後期ともに授業に関する予習・復習の学習時間が3時間未満の学生が前期で95.8%、後期では88.1%となり、授業に関する予習・復習の学習時間が不足していることが明確になった。このことから授業の予習・復習を促す授業運営を行うことが必要であることがいえる。この結果は学部・学年による大きな差が見られず、大学全体としての課題であると考えられる（図7及び図8）。なお、後期では回答欄を1～10時間まで1時間毎の選択肢とし、より詳細な回答を得られるようにした。

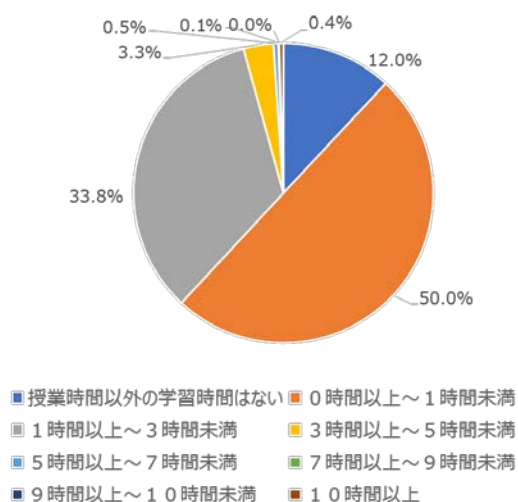


図7 前期 予習復習の1日あたり学習時間

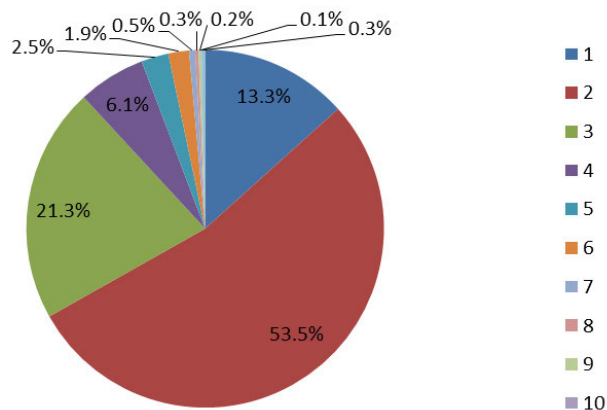


図8 後期 予習復習の1日あたり学習時間

1日あたりの学習時間を授業に関する学習時間と授業以外（資格取得等）の学習時間について、学部別に平均時間を算出した（図9及び図10）。前期・後期ともに経営学部と法学部では授業以外の学習時間が授業に関する予習・復習の時間を上回っている。これは、簿記や法学検定など関連する資格・検定が影響していると考えられる。

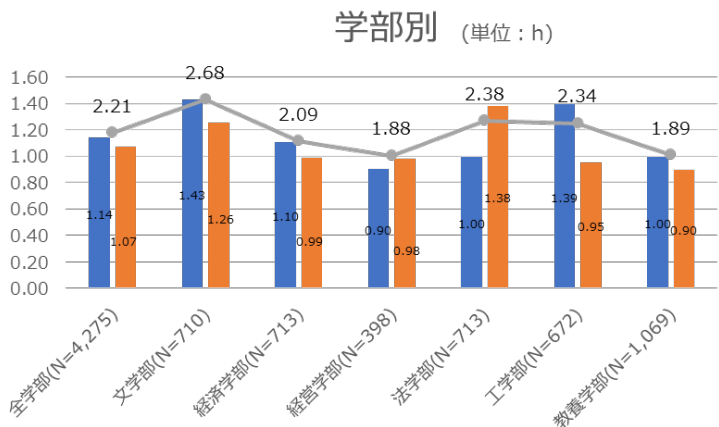


図 9 前期 学部別平均学習時間 (右軸)

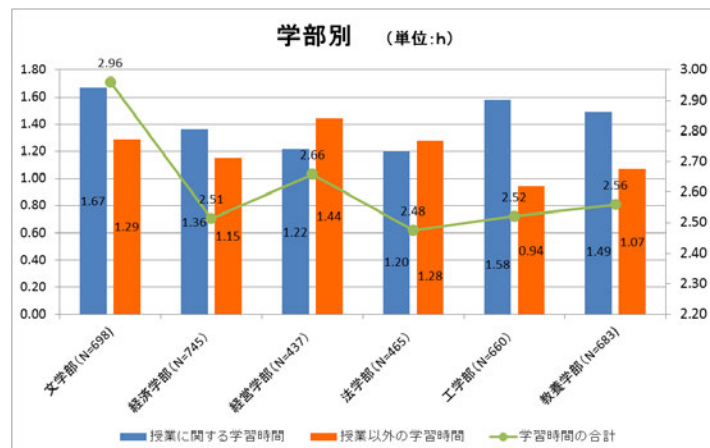


図 10 後期 学部別平均学習時間

また、学年別の平均学習時間は全体として後期は増加している (図 11 および図 12)。特に 4 年生では前期の学習時間は授業以外 (資格取得等) の学習時間が多く、後期では授業の予習・復習に関する学習時間が 0.79 ポイント増となった。これは就職活動を終え、卒業に向けた学習時間 (卒論を含む) が増えたためと推察される。

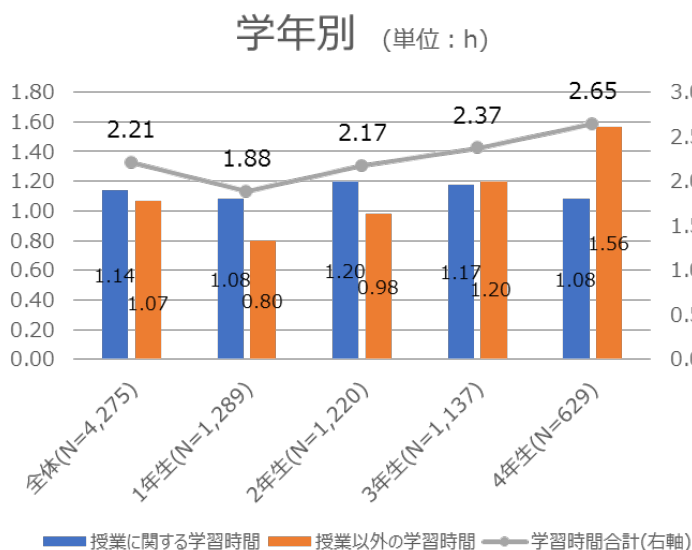


図 11 前期 学年別平均学習時間

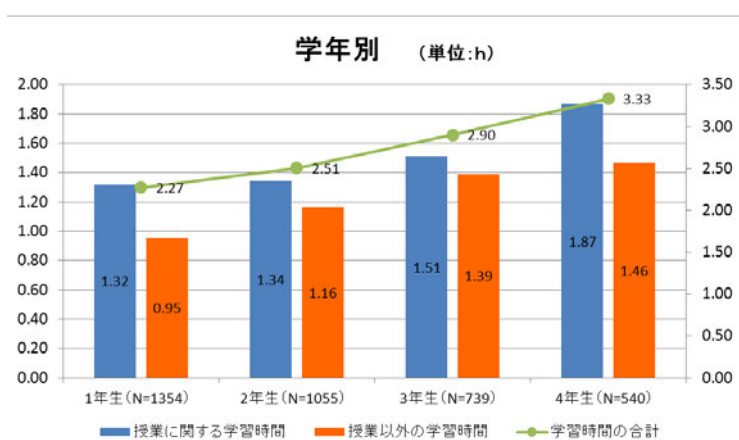


図 12 後期 学年別平均学習時間

図書館とラーニング・コモンズ (文学部・経済学部・経営学部・法学部 3・4 年生のみ) を自習や空き時間に利活用している学生が見られることから、更なる利用促進の啓発が必要である。



### 3.2 学生生活について

前期では 72.5% (3,098 名)、後期では 72.0% (2,655 名) の学生が、学生生活について「充実している」もしくは「どちらかと言えば充実している」と回答をしており、学生生活を概ねポジティブに捉えていると思われる (図 13 及び図 14)。

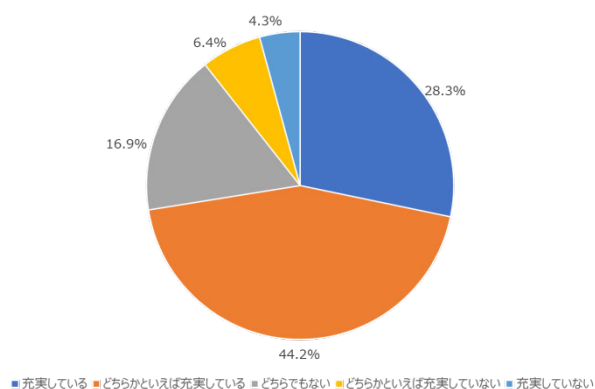


図 13 前期 学生生活の充実度

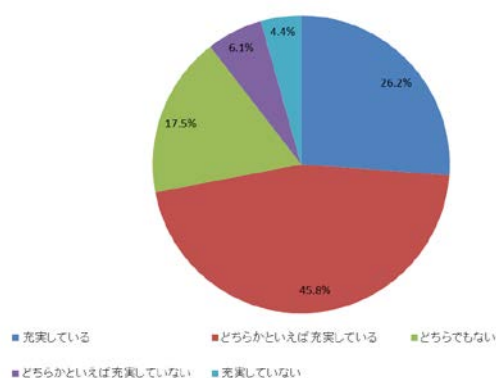


図 14 後期 学生生活の充実度

しかし、前期 10.7% (454 名)、後期 10.5% (387 名) の学生が「どちらかと言えば充実していない」もしくは「充実していない」と回答しており、部活・サークル等に加入していない学生はこのうち前期 260 名、後期 244 名となり、「どちらかと言えば充実していない」もしくは「充実していない」と回答をした学生のうち半数以上が課外活動を行っていない。これには課外活動での目標や友人関係が誘因していると推察される。なお、学部・学年による大きな差異はない。

また、授業の学習時間と学生生活の充実度の関連はこの調査では見られなかった。「充実している」と答えた学生の充実している要因が明確ではないためである。

また、朝食の摂取については、前期で 48.1% の学生が毎日朝食を食べており、75.1% の学生が週 3 日以上朝食を食べていると回答した。後期においても同様の結果となり、概ね朝食を食べて授業を受講している。TG あさ食は文学部・経済学部、経営学部、法学部の 1・2 年生、教養学部全学年にて算出すると前期 16.2%、後期 12.7% 前後の学生が週に 1 回以上利用している。これは、朝食の摂取に少なからず貢献していると思われる。

### 3.3 自由記述について

自由記述に関しては、**Q.20** 前期を振り返って、学習時間や勉強に対する取り組みで良かった点（後記設問：後期を振り返って、学習時間や勉強に対する取り組みで良かった点[4年生は、4年間を振り返って良かった点]）、**Q.21** 前期を振り返って、後期に向けて学習時間や学習意欲に関して、自分自身で改善したい点（後記設問：学年を振り返って、新学年に向けて学習時間や学習意欲に関して、自分自身で改善したい点[4年生は、学習時間や学習意欲をどのように改善したか]）を問う自由記述とした。

分析方法は個別設問を **KH-Coder** を利用してテキストマイニングし、共起ネットワーク（媒介中心性）を作成し、抽出単語の関連性の観点から分析を行った。

※媒介中心性：その点を通る経路が多いほど、中心性が高いとする計算方法。

#### 3.3.1 Q.20 前期・後期を振り返って良かった点

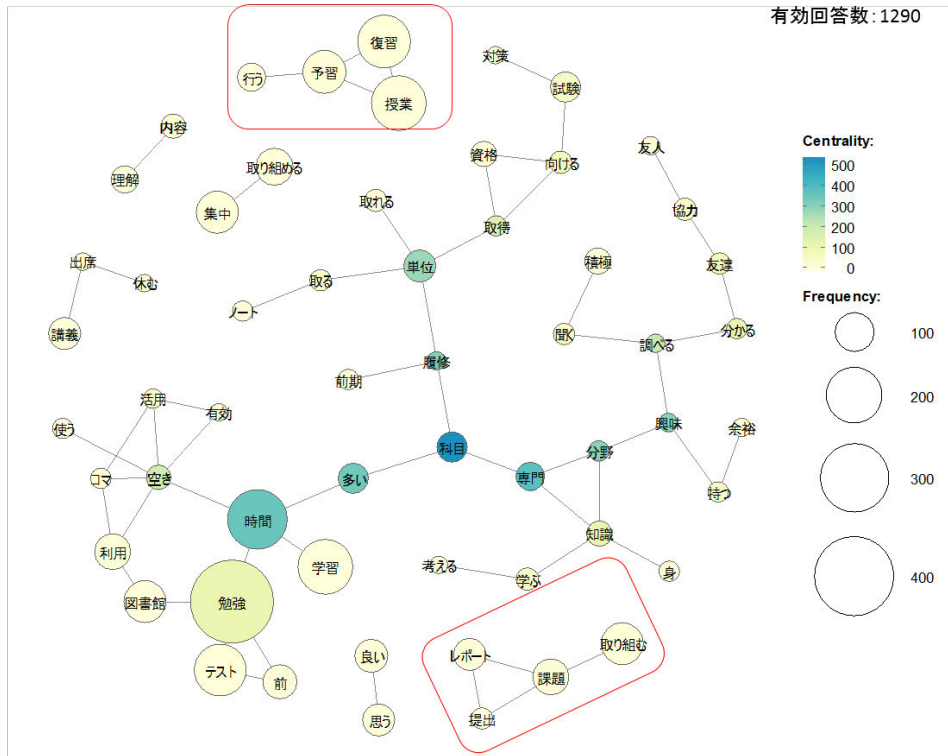
前期及び後期を通じて、「勉強」、「時間」、「授業」、「学習」の頻出単語が現れた。

前期では「科目」という単語を中心として記述され、「空き時間」と「図書館の利用」、興味・関心から「調べる」→「わかる」→「友人」に「協力」という共起が示されており学修成果につながる良い繋がりが見られた（図 15）。

後期になると「時間」を中心として「学習」→「図書館」→「課題」の繋がりに変化した。前期では「学習」と「課題」に関連を持つ回答が見られなかったが、後期になると「図書館」「課題・レポート」へと関連されている（図 16）。

しかし、今後の課題として「授業」と「学習時間」、「予習・復習」が繋がりを持った記述がされていないことがある。これは、授業の到達目標と課題やレポートとの関連性が体系化されていないことや、予習・復習等の授業外学習に関して、シラバスに具体的な提示をしていないことや、授業中の指示が不足しているためではないかと考えられる。

共起ネットワーク(媒介中心性)による分析

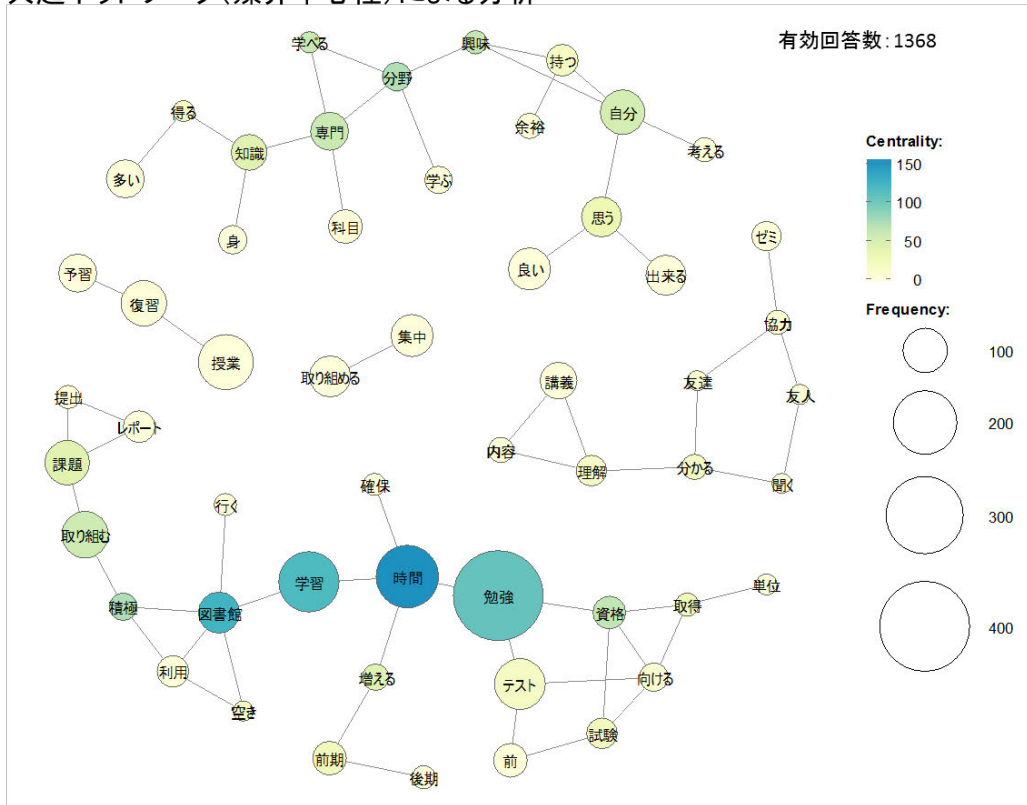


頻出単語上位30

抽出語	出現回数
勉強	447
時間	226
授業	194
学習	190
復習	179
テスト	172
予習	119
取り組む	116
集中	113
出来る	112
図書館	112
特に	97
取り組める	91
自分	89
課題	86
利用	84
前	77
良い	73
レポート	68
講義	67
思う	67
単位	67
多い	60
試験	59
科目	58
計画	56
専門	53
行う	52
理解	48
積極	44

図 15 Q20. 前期を振り返って、学習時間や勉強に対する取り組みで良かった点

共起ネットワーク(媒介中心性)による分析



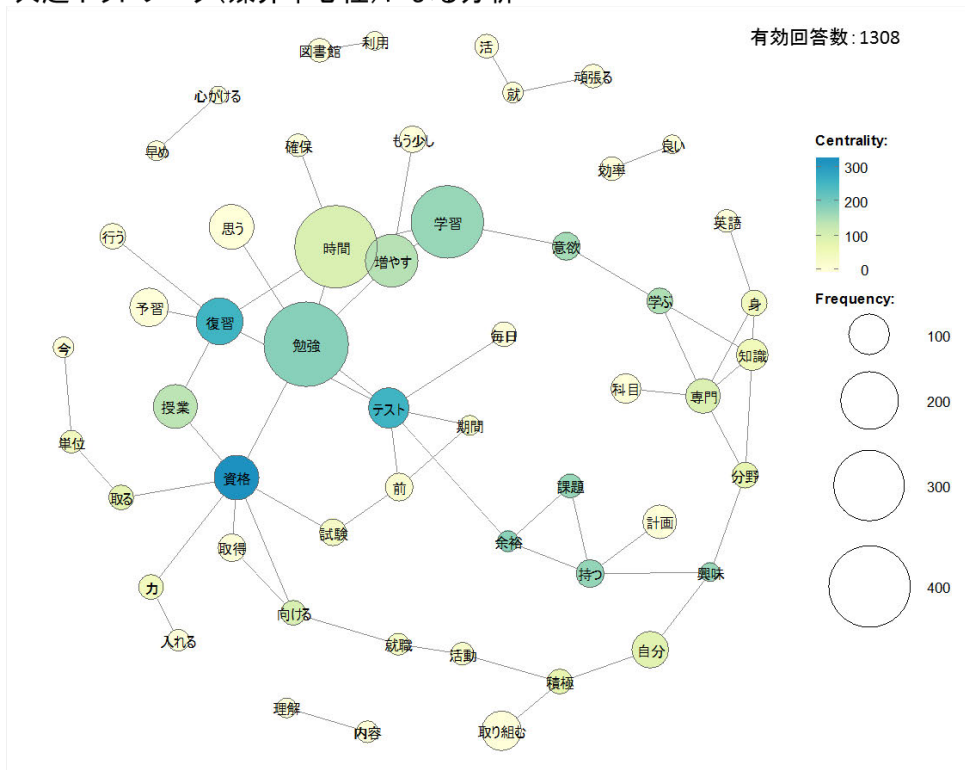
頻出単語上位30

抽出語	出現回数
勉強	407
時間	192
学習	183
授業	149
テスト	129
取り組む	106
復習	104
課題	100
自分	97
集中	88
良い	88
取り組める	86
図書館	84
出来る	83
思う	79
予習	74
専門	72
多い	71
講義	69
特に	67
知識	64
前	59
科目	57
前期	57
資格	55
計画	52
レポート	50
利用	50
持つ	49
試験	48

図 16 Q20. 後期を振り返って、学習時間や勉強に対する取り組みで良かった点



共起ネットワーク(媒介中心性)による分析



頻出単語上位30

抽出語	出現回数
勉強	435
時間	412
学習	321
増やす	169
復習	134
思う	121
資格	120
授業	117
テスト	99
取り組み	97
予習	91
自分	82
専門	74
計画	68
知識	63
集中	59
科目	55
考える	52
特に	49
意欲	48
取得	48
前	48
持つ	46
もう少し	45
試験	43
改善	41
学ぶ	40
行う	40
講義	40
分野	40

図 18 Q21.次年度に向けた学習意欲と改善点

#### 4 まとめ

回答率は前期 38.4%、後期 33.4%となり、学生の学修行動と学生生活の実態把握には有益な調査であった。

特に、本学学生が学習面では協働学習による学びを得ていることが自由記述からも読み取ることができ、学習面、学生生活面の両面で概ね充実していることが判明した。このことは学生自身が今後の学習成果を高めることに積極的であると考えられる。特に自由記述では、次の学期への改善点に学習意欲の高い内容が多いことから、この意欲を維持するために、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針に各授業の到達目標が整合し、学業への意義を学生が主体的に考えられるようにしなければならない。

一方、授業に関する予習・復習及び資格取得等の学習とともに学習時間が非常に少ないという結果が明らかとなった。詳細なクロス集計等を行っても学部・学科・学年間で大きな差異は現れていない。自由記述においても学習時間、授業、課題、予習・復習の関連性が低く現れている。これは、学生が授業外の学習について授業の到達目標、予習・復習の方法を理解していないことが要因ではないかと思われる。

今後、学生に対しこれらをわかりやすく明示することが求められる。そのため、学修成果評価の方針（アセスメント・ポリシー）を策定し、学修ポートフォリオやルーブリック、manaba の活用等によって学生自身が学習状況を可視化することができるような方策の検討を開始する必要がある。

また、これらの仕組みや制度を構築するだけでなく、運用する大学も各学部学科、個々の教員が各々に実施するのではなく、統一した評価方法や実施時期と方法を定めるとともに、FD による教員の意識統一も必要となる。

本学のシラバスには、1 科目（2 単位）で週に予習 2 時間、復習 2 時間を要すると記載されており、これを毎日行くと 1 日当たり 35 分の学習時間が必要となるため、5 科目（10 単位）の履修で 1 日約 3 時間の学習時間が必要となるため、今後は CAP 制（1 学年 44 単位）の適切性についても検証する必要があると思われる。

#### ・2018(平成 30)年度調査の実施への課題

本報告書は Web 回答での学生番号を記載した記名式アンケート調査の回答のみを集計している。単位の履修状況、修得単位数、GPA などとの関連付け、2017(平成 29)年度は自己申告にて利用頻度を回答させた図書館、ラーニング・コモンズの利用状況については、学内のリソースを有効活用できるよう設問の精査が必要であるとともに、学生の負担とならない設問数とし、回答率を高められるよう設問を工夫・修正する予定である。

【参考】設問

1. 学生基本情報

Q1 学生番号

Q2 所属学部学科

Q3 学年

Q4 性別

Q5 居住区分

2. 学修行動に関する設問

Q6 あなたの授業に関する予習復習の 1 日あたりの平均的な学習時間を 1 つ選んでください。

Q7 あなたの授業以外の学習（資格取得等）に関する平均的な 1 日あたりの学習時間を 1 つ選んでください。

Q8 あなたの授業以外の最も多い学習場所を 1 つ選んでください。

Q9 前期中に図書館を何回程度利用しましたか。あてはまる項目を 1 つ選んでください。

Q10 前期中にラーニング・コモンズを何回程度利用しましたか。あてはまる項目を 1 つ選んでください。

Q11 少人数で行われる演習形式の授業を履修していますか。あてはまる項目を 1 つ選んでください。

3. 学修成果に関する調査

Q12 前期履修科目で身につけた能力について最も成果のあったものを 1 つ選択してください。

Q13 前期履修科目で身につけた能力について 2 番目に成果のあったものを 1 つ選択してください。

Q14 今後東北学院大学で身につけたい能力について最もあてはまるものを 1 つ選択してください。

4. 学生生活に関する調査

Q15 あなたは学生生活が充実していると感じていますか。あてはまる項目を 1 つ選んでください。

Q16 部活・サークル等に参加していますか。最も多く参加している項目を 1 つ選んでください。

Q17 アルバイトはしていますか。あてはまる項目を 1 つ選んでください。

Q18 朝食を食べていますか。あてはまる項目を 1 つ選んでください。

Q19 TG あさ食（泉キャンパス）を利用したことがありますか。あてはまる項目を 1 つ選んでください。

4. 前期の振り返りに関する調査（2017 年度後期の振り返りに関する調査）

Q20 前期（後期）を振り返って、学習時間や勉強に対する取組で良かった点を記入して

ください（自由回答）（4年生の方は、4年間を振り返って良かった点を記入してください）

**Q21** 前期（この学年）を振り返って、後期（新学年）に向けて学習時間や学習意欲に関して、自分自身で改善したい点があれば記入してください（4年生の方は、学習時間や学習意欲をどのように改善したかを記載してください）（自由回答）